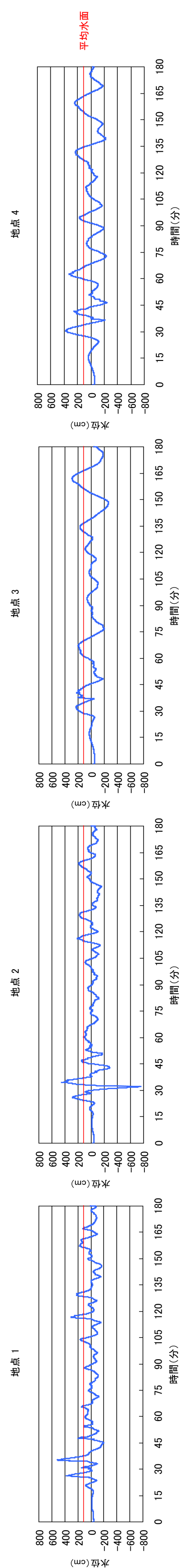


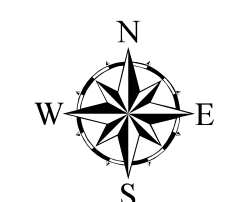
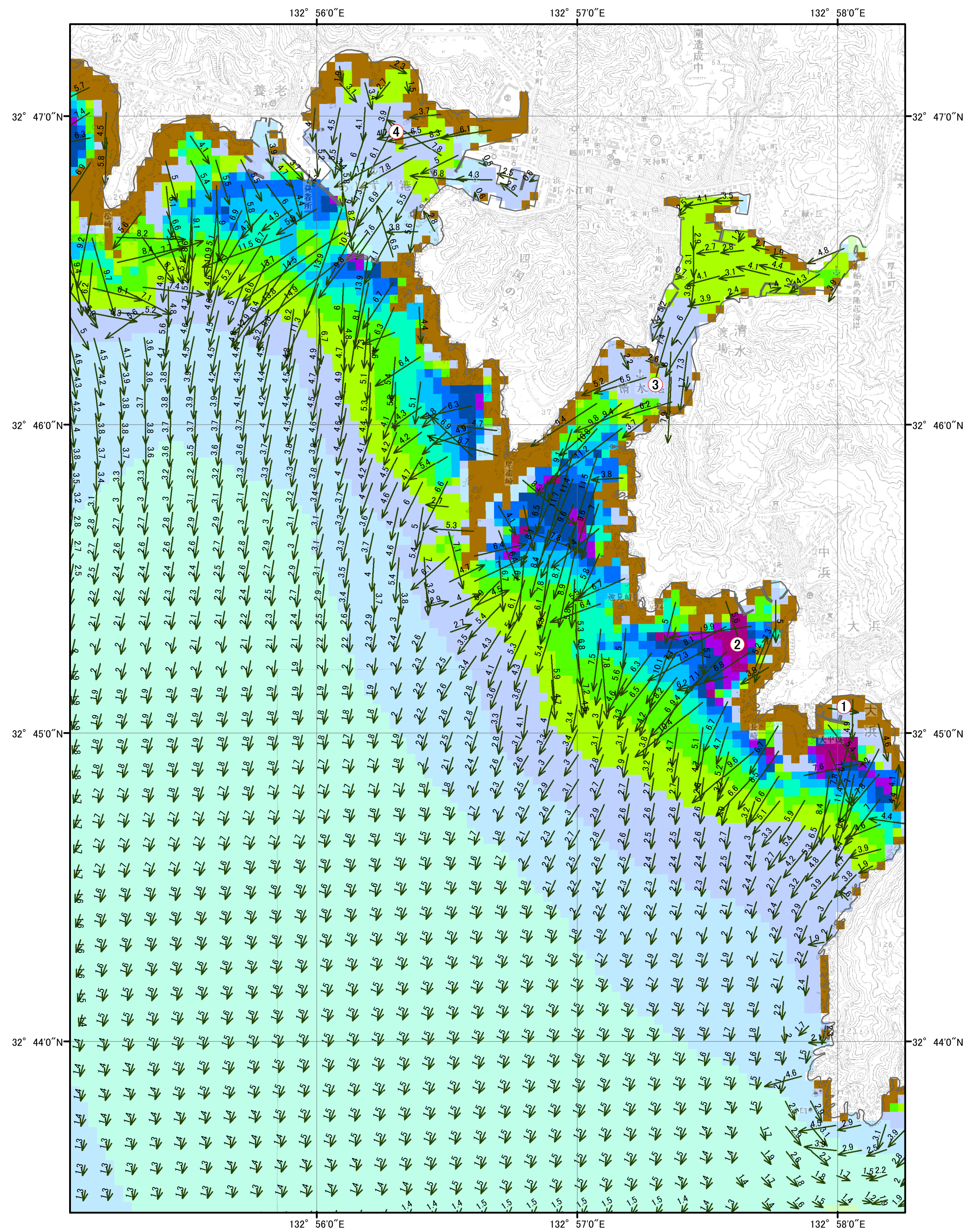
経時変化図：図上の位置における津波の挙動を時系列で示す。



土佐清水港 津波防災情報図(引潮図)

計算条件：最低水面
隆起量：平均 -50cm(-65cm ~ -32cm)

・津波は、震源の位置、規模、細かな地形の影響などにより、試算した津波と異なることがあり、過去には、今回の津波の試算より大きな津波が来たことがある。



1:20,000

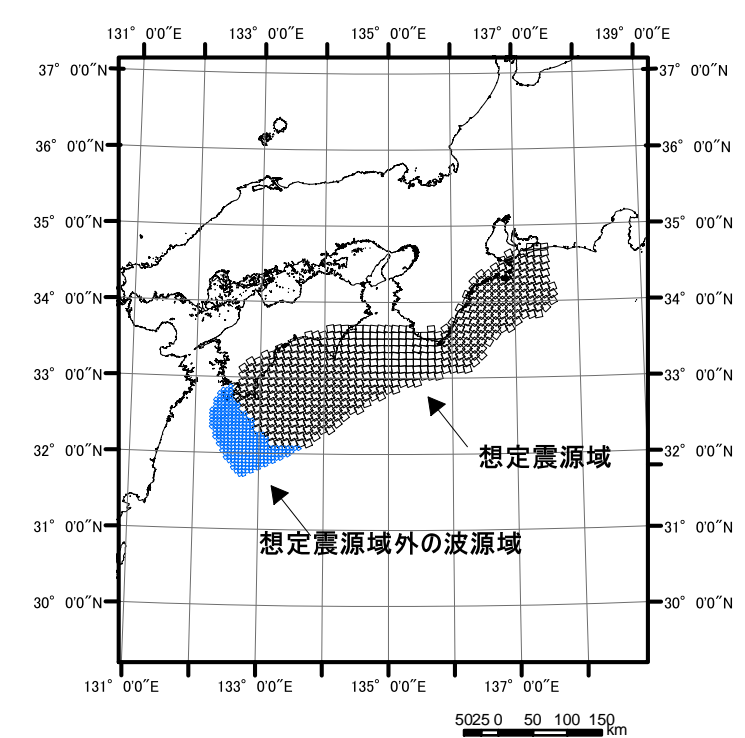
座標系：メルカトル図法
測地系：世界測地系(WGS84)

凡例

- 露出域
- 経時変化図出力点
- 最大水位低下
 - 600~最大760cm
 - 550~600cm
 - 500~550cm
 - 450~500cm
 - 400~450cm
 - 350~400cm
 - 300~350cm
 - 250~300cm
 - 200~250cm
 - 150~200cm
 - 100~150cm
 - 50~100cm
 - 50cm未満
- 引潮時最大流 [knot]
 - 6 knot
 - 4 knot
 - 2 knot

・海岸構造物は、地震・津波の影響を受けないものとして計算している。

想定震源域と波源域の位置



マクロ的に見たパラメータ	南海地震	東南海地震
断層面積 S (km ²)	約 36,500	約 14,500
地震モーメント Mo (N・m)	8.34 X 10 ²¹	2.15 X 10 ²¹
平均すべり量 D (m)	5.70	3.63
モーメントマグニチュード Mw	8.55	8.15

・試算に使用したデータは、海上保安庁海洋情報部のJ-EGG500、J-BIRD、沿岸の海の基本図地形データ、及び海図を作成する際の基礎データを使用した。
 ・この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図25000(地図画像)を複製したものである。
 ・(承認番号 平15総復、第673号)
 ・この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用したものがある。
 ・(承認番号 平15総復、第672号)

・本図は、中央防災会議「東南海・南海地震等に関する専門調査会」で公表された断層モデル及び断層パラメータを使用した。

作成機関：海上保安庁
作成年月：平成16年 3月(初版)